



いざというときのために…

## “十勝岳火山噴火”による泥流危険予測図

この危険予測図は、十勝岳山頂部のグラウンド火口内で噴火が発生するものとし、過去約2年間ににおける噴火の実例をもとに、次のような噴出物および泥流危険域を描いたものである。

- (1)火口を中心とした火山・火山噴火の地下危険域、および火口裏・火山噴火の噴火予兆域(厚さ10cm以上積む区域)が示してある。
- (2)北面の腹斜面から山腹に向かって、岩屑なれ、火砕流、溶岩などの泥流危険域が示してある。
- (3)岩屑なれ・火砕流などと隣接する河川の下流地域、市街地で示されている。大正15年5月の噴火では、岩屑なれが積雪をかけて泥流を発生し、25kmあまりの市街地に泥流が到達している。(平均時速約60km)
- (4)山頂部に多数の火口がある場合、隣接して二次的に泥流が発生する危険のある河川も示してある。破黄沢川などの美瑛川支流や富良野川上流での泥流でも、同じく二次的に泥流の発生が予想される。
- (5)噴火地点が複数となったり、噴火場所が複数の場合には、複数危険域はより広範に及びます。特殊な噴火やより火大規模な噴火は特に警戒せよ。しかし、実際の噴火の際には情報に注意し、どんな対応が必要か半導く判断できるようにしておきましょう。

